

「日」の出ずる国」から来た多くの日本人を悩ます、日照時間過少な欧州の年末が今年も無事過ぎ去った。比較的穏やかだった美しい11月が終わる頃、突然灰色の日々が到来し、体内太陽電池の充電ができなくなった。仕事で音楽に接して感動しても、その充電量はすぐに消費されてしまう。すると体調も崩れ、悪循環となる。こんな時は、家のスピーカーからお気に入りの音楽を流し続けて癒されるしかない。一早いクリスマスプレゼントとしてもらったマリア・カラス生誕90年記念リマスターCDを聴いて、彼女の高度な技術とビリビリ伝わる表現力にため息をつき、エネルギーをもらったが、録音がなかった頃はどうかのだろうかと想いを馳せた。それがまさにオルゴールの誕生の由来だったのだろう。

時計産業などと同様、オルゴール製造業も実はスイスと日本共通の得意分野なのである。オルゴール製造の全ての過程をこなせる会社は、世界に3社しかないという。そのうち中国の1社は大量生産を目的とした会社なので、伝統的な工程を全て自社で賄っているのは日本の三共精機と、スイスのREUGE社だけだというのは驚きだった。

REUGEはフランス語圏の山間Sainte Croixに居を構える。Yverdon le Bainで単線列車に乗り換え約30分かけてやっとたどり着く、標高1100mのこの村の冬は長く厳しい。他の時計産業発祥地と同じように、冬の間の内職として精密機械工業が始まったのだが、この地ではオルゴール産業にまで発展したのである。

約100年前に建てられたというREUGE社の工場は、怪しいまでに昔の面影を残した古びた建物だ。1年後に移転計画が進んでいるので、この歴史を身をもって体験できるのは今年が最後であろう。20~30人のグループで申し込むと見学させてくれるという。

入口を入ると、中では比較的モダンなエントランスに出迎えられる。白いソファにもオルゴール仕掛けが施されているのがREUGEらしい。製造エリアに入ると、まず古びた大きな机が4つ並んだ部屋に通された。オルゴール製造に使われる機械を作る機械をも所持しているのだという。「メカニックは全て自社で作らないと、修理やメンテナンスの度に人に頼らなければならぬから」とCEOのKurt Kupperさん自らが案内してくれた。

続く開発ルームにはそれぞれ顧客の希望に合わせたデザインが持ち込まれ、それがコンピューターにインプットされるのだという。そしていよいよ、「企業秘密」の音源製作部署を見学させてもらった。1曲を30~40秒のフレーズに凝縮してアレンジし、そのメロディに合わせてまずはシリンダーに穴を開ける。その際の熱で熱くなり過ぎないように、油で満たされた状況での作業だ。2台目の機械ではその穴に針を刺す。その後シリンダーの筒の中に熱い液体状の金属混合物を注ぎ込み、固まったら出来上がりだ。素材はニッケルや銀で、純金はいい音質が得られないそうだ。

こうして完成したシリンダーの奏でる音楽を一本一本チェックする、防音設備の整った個室もある。そこから流れてくる音楽は深みがあり、おもちゃのオルゴールとは一線を画す本格的な音色は琴線に触れてくる。これらのシリンダーをはじく鍵盤をつけ、箱の中に入るとオルゴール本体が完成となるのだが、大きな物になると家具や楽器のような佇まいだ。そうした特別なオルゴールに使われる木は、地元産か、ミラノからベルガモ辺りの北イタリア産が多く、バイオリン製作に使われる木の産地と一致しているのだという。

その他珍しいところでは、鳥が鳴くオルゴールもある。本物の鳥の羽を植え付けて作ったカラフルな鳥が鳴くのだが、常に鳴いている・時々鳴く・停止という3段階のプログラムがあり、鳴き声の高さも2種類から選べる。目覚まし時計としても使える。アコーディオンのからくりと同じように空気圧縮機とメカニックでできていて、全ての工程部分で特注ができる。人間の奏でる音楽ではないが、自然が奏でる音楽もまた、心を癒すものだ。

こうして出来上がった製品の90%が国外に輸出される中で、その20%が日本へ運ばれているという。日本では2000~3000フランのランクの製品が最も人気を集めているそうだ。

最後に贅沢なショールームに招かれた。ここでコンサルティングをしながら、顧客の要望を反映させた製品を生み出すのだという。今までの特注製品のラインナップはゴージャスだ。フェラーリ60周年記念(2007年)、ペニンシュラホテル東京の限定ギフトは最高のおもてなしを提供するベルボーイハットの形、オーマンのロイヤルオペラハウスの特注は民族楽器の形、ランコム香水『La vie est belle』の

Duty Free用オブジェには幻想的な美しい世界が展開され、前ローマ法王ベネディクト16世に献上したスイス憲兵記念品、そしてスペイン国王、高円宮妃、エルトン・ジョンやダライ・ラマへのプレゼント、さらにLCDスクリーンとスピーカー付きのハリ・ポッターまで、世界とつながっているのだ。

ここには記念品の見本カタログは存在しない。「型にとらわれず、対面して顧客の文化を知った上で、創造していきたい」とKupperさんは話す。「全ての仕事に一番必要なのはパッションです。スキルは学ぶことができるけれど、パッションがないと成功することはできません。」と誇らしく語る彼もポジティブなパッションの権化のようだ。

自分へのプレゼントに大金をはたくなのが憚れる方に朗報がある。毎年クリスマス前には、多少の欠陥がある製品を破格の値段で買えるクリスマスセールが開かれるのだ。地元住民への御礼の気持ちも兼ねて開催されるセールということで、40~50年も前から恒例となっており、毎年500~2000人が訪れるという。それもそのはず、50人弱の従業員達はこの村の出身者が大半を占め、一度入社すれば転職することもなく一生勤め通す。この村の住民は皆、一族のうち誰かがREUGEの社員だというスタンスで土地に根付いているのだ。そのセールに便乗して今度のクリスマスセールには、お気に入りの一曲を奏でてくれるマイボックスを手に入れたいと目論んでいる。

突然心に穴がポッカーリ開いた時、すきま風で心が風邪をひいた時は以下の処方箋をお試し下さい。皆さんに寄り添ってくれるお気に入りの一箱が見つかりますように・・・。



REUGE「リュージュ」社製オルゴール

www.reuge.comにてオルゴール収録曲試聴可能。毎年本社にてクリスマスセールも開催される。またiPhone用アプリも無料で入手可能。(「眠れるオルゴール」「癒しのオルゴール」各5曲)

オルゴール療法 主催公演ではないが、日本では下記のホールでオルゴールコンサートも開催されている。

〈関東〉紀尾井ホール www.kioi-hall.or.jp 次回は12月9日(水)

〈関西〉いずみホール www.izumihall.co.jp